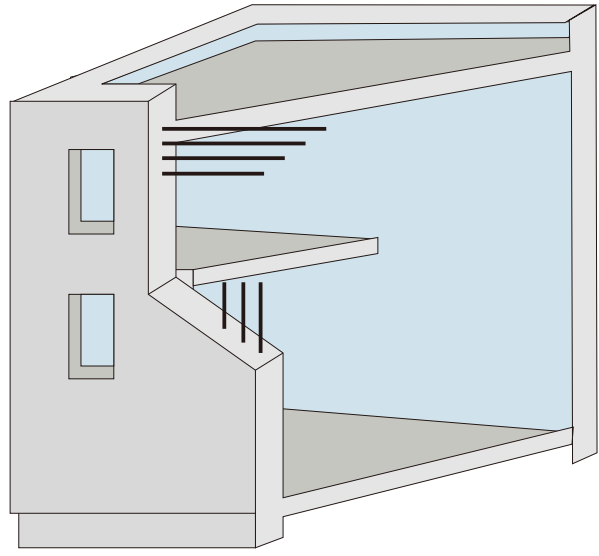


工法・構造の種類 Part.2



「鉄筋コンクリート (RC) 造」

特徴

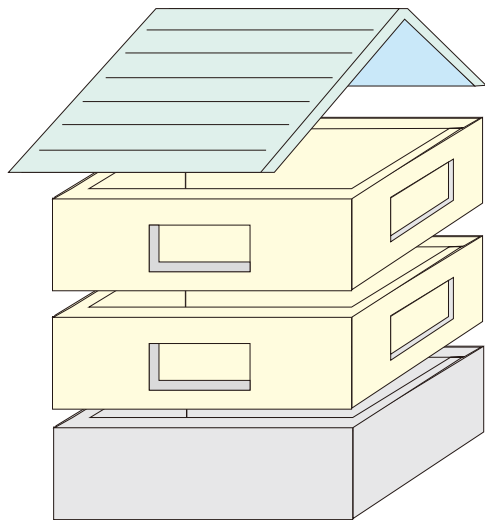
現場で鉄筋を配筋して枠を組み、コンクリートを流し込んで組み立てる工法。鉄筋コンクリート造には、梁と柱で荷重を受けるラーメン構造と壁で荷重を受ける壁構造の2種類がある。基礎から屋上まで一体化してつくるので安定感がある。

メリット

耐火性・耐久性・遮音性に優れる。引っ張りに対する力に強い鉄筋と、圧縮に対する力に強いコンクリートの組み合わせによって、高い強度を持つ。大空間をつくることも可能。

デメリット

躯体自体に重量があるため、強い地盤と十分な基礎工事が必要。工期も6ヶ月以上と長く、ほかの工法よりもコストが割高になる。



「プレハブ工法」

特徴

工場で規格生産された壁・床・屋根などの部材を現場で組み立てる工法。構造体の種類によって木質系、鉄骨系、コンクリート系などがある。プレハブとは「前もって製造された」という意味をもつ。

メリット

大部分が工場で生産されているため、手間がかからず、その分工期も短縮できる。安定した品質を持っている。

デメリット

設計の自由度は低い。現場ではクレーンを使って組み立てることが多いため、前面道路が狭かったり、敷地に十分な広さがない場合は施工できないこともあるので事前の確認を要する。

「軽量鉄骨造と重量鉄骨造の違い」

軽量型鋼と呼ばれる鋼材で建物の骨組みを仕上げるのが「軽量鉄骨造」。厚さ6mm超の鉄骨を用いて柱と梁を支えるのが「重量鉄骨造」。重量鉄骨造の方が耐用年数も長くなります。